

# 経済・金融 フラッシュ

## 中国GDP発表： 景気は適度な減速、インフレ懸念は収束に向かう

経済調査部門 上席主任研究員 三尾 幸吉郎

TEL:03-3512-1834 E-mail: mio@nli-research.co.jp

### 1. 今回の景気減速は想定範囲内の動き

7月15日、中国国家统计局は2010年上半期の国内総生産（GDP）が17兆2840億元となり、実質で前年同期比11.1%増になったと発表した。この内、第2四半期（4-6月期）の伸び率は前年同期比10.3%増で、第1四半期の同11.9%増と比べると1.6%ポイントの低下となった（図表-1）。

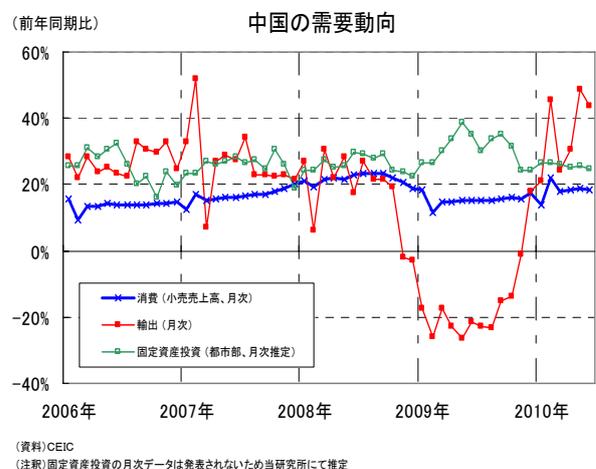
2010年上半期の動向を需要別に見ると、投資動向を示す固定資産投資は、11兆4187億元で前年同期比25.0%増、消費動向を示す小売売上高は7兆2669億元で同18.2%増、輸出は7051億米ドルで同35.2%増となった。これを2010年第1四半期との対比で見ると、固定資産投資が同25.6%増から0.6%ポイント低下、小売売上高が同17.9%増から0.3%ポイント上昇、輸出が同28.7%増から6.5%ポイント上昇となった。また、第1四半期に2.2%だった消費者物価指数上昇率は、上半期には2.6%へと0.4%ポイント上昇幅を高めており、第2四半期の実質GDP成長率の減速は、物価上昇による実質減価と投資の減速が主因と見られる。

また、中国政府及び人民銀行が、景気過熱を抑えるために年初から預金準備率の引上げや不動産価格抑制策を相次いで実施してきたことを考えれば、今回の減速は政策当局が想定した範囲内の動きと見られ、政策効果の示現によるソフトランディングと言えるだろう。

（図表-1）



（図表-2）



## 2. 景気減速が続けばインフレ懸念は収束へ

一方、同時に発表された6月の消費者物価指数（CPI）は前年同月比 2.9%上昇と、5月の同 3.1%上昇から上昇率が鈍化した（図表-3）。

消費者物価（前月比）の推移を見ると、例年、年初に上昇し3月から6月は下落する傾向がある。今年1～6月の動きを見ると、バラツキはあるものの、ほぼ過去平均並みで推移しており、昨年末に見られたような上ブレは収まっている。

しかし、消費者物価の変動を分解して、景気変動と物価の関係を観察してみると（図表-4）、消費者物価は景気変動に半年程度遅れて反映する傾向があり、11.9%の高成長となった第1四半期の景気過熱が第3四半期も消費者物価を押し上げる要因となる可能性がある。図表-3 に示した食品とエネルギーを除いたコア部分の消費者物価指数は6月も前年同期比 1.0%と5月の0.9%から上昇幅を高めており、第3四半期も消費者物価の上昇傾向が続く可能性が高いと思われる。

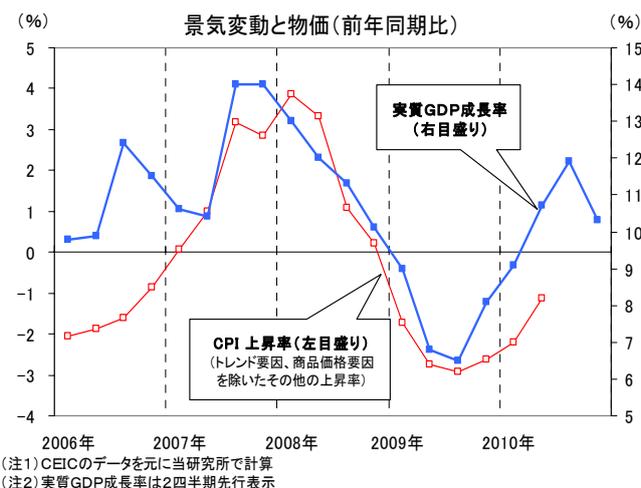
但し、景気が今後も減速傾向を続ければ、今回の景気減速が年末頃には消費者物価の上昇を抑制し始めると見られ、インフレ懸念は収束に向かう可能性が高まったと言えるだろう。

（図表-3）



（資料）中国国家統計局、CEIC

（図表-4）



（お願い）本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。